

筑波斗争の帝國主義大學解 体斗争への質的飛躍を

學團主義改良主義と訣別し、安保勸告 沖繩解放の怒涛の進撃と結合せよ

教育大学生解放戦線(準)

一本日の教育下斗争報告集に結集された全ての労働者、学生、市民のみなさん！

そして、教育大学生委員会に結集する全ての斗争學友諸君！ 教育大学生解放戦線(準)より、
筑波移転阻止斗争の現局面と今後の斗争方向性について若干の提起を行なうとともに、斗争への決起を
訴へたい。

二月二八日の特別隊進入、ロックアウト、特別隊駐留下の付帯授業再開は、我々の斗争に、新巨頭層の
を要請している。すでに、過去の、學團主義的斗争へ学内における力の関係の改善のしるは対如し之等
かりか、敗北を内閣から準備する以外の何物でもなくなつてしまつてゐる。マ、一部諸君の固執する「革
命」は他別改良斗争の推進という、改良主義も同様のである。

移転阻止、手紙の非民主性に対する怒りの斗争として始められた(本報)の状況は果、それはだが、本
には、日共、民青の改良主義的修正主義的指針による、77年オ一次斗争は、その限界故、内閣崩壊し、貝
敷北区闘じた。その支那は、68年6月民青執行部を文自治因から放逐することにより、本格的に南島、北
区斗争は、筑波移転阻止のメローカを自らのものとし、筑波斗争は大學の帝國主義的改編に對する反
斗争として、実力斗争をも、斗争の方向をもち始めた。二五の日に及ぶバリケード占拠斗争がその第一
だが、全學斗争準備(村改選)は彼らの理論の限界故に、実力斗争を無意味的に、戦術的に止らざるべ
に於ける力関係へそれに主要に民青との、そして大學当局とのの改善の手段へおとし込めて了つた。そ
界の現われこそ、11日大學側の呈學集内閣提案への対応の混乱であり、入試中止決定への反撃の誤り、
停学であり、2月28日本體防衛斗争の放棄である。

その克服こそ、3月以降の我々の任ムであり、3月4日実力學團奪還斗争を通じてからとられるべき内容
であった。

今早朝田斗争以降、佐世保、三里塚、王多、新宿、東大、神田と戦闘的に実力斗争を斗争抜き日本郵政
の目標をくり出し巨頭層運動、そして、日大における圧倒的大衆性、戦闘性による斗争、一月東大工
闘闘一解散右翼防衛斗争を斗争抜き、権力内閣にまで内迫つたある大學斗争、その革命派が能動的につ
て斗争の発展を遂げ、発展させることが、その第一である。その第一は、権力の攻撃が、68年日職労約紛
争、マニマに於ける徹底的、政治的、軍事的支配を、先進帝國主義列強との市場分割戦を斗争、ストナム入
中口入食店を占拠するマニマの革命的人民の存在を確立し、大衆共榮圏の再確立としてなした。斗争は、
日本帝國主義の、国内体制の帝國主義的再編、帝國主義支配の強制的暴力的遂行のための準備として、階級的
攻撃であることからも必然性がある。

その第一であるならば、我々は、与や戦闘的學生運動が切り開いた地平、日大、東大を中心とする68年の斗争
斗争が切り開いた地平を継承、発展させ、筑波斗争の勝利を斗争とらねばならぬ。

教育下の筑波移転は、当初から、國家の教育政策の重要な一環であり、その学内における推進の担い手、
國家権力と一体化した大學上層部へ委員、評議員、専ら局長ら高級文部官僚の移転推進を打ちかけた。こ
の斗争は國家の政策に對する斗争として展開せざるを得ない内容をもち、そして、68年、學生運動
運動という外的要因にも助けられ、学内における、新層斗争、委員長阻止斗争における実力斗争の展開が
彼等が大學の帝國主義的改編の中心環であることと暴露し、即自的ながら、國家権力の学内における
和議を、評議員に對する斗争として、いには、國家権力の政策の強制的推進とに對するも展開する本體
斗争へと発展させた。

日大入試中止決定、2月28日本體隊進入、ロックアウトは、我々の実力斗争を、マする、敵を委員長解散した

